

一人ひとりができることから始めよう 洞爺湖子ども環境サミット

サミット開催を控えて、6月22日環境学習を積極的に行い、一人ひとりの日常から約50人が参加して、北海道教育委員会が主催する「洞爺湖子ども環境サミット」（実行委員長 長河島春香さん Ⅱ 虻中2年）が、洞爺湖温泉小学校で行われました。

町内からは、各小・中学校から2名ずつ参加。「世界の環境を守り未来につなげるために」をテーマに討論を重ねました。基調提言を発表した伊達中の氏家菜々美さん（3年生）からは、最近の異常気象などを例に地球温暖化について言及し、「一人ひとりが、できることから行動し、その輪を広げていくこと」をアピールしました。

続いて、学校での取り組みなどが発表され、それを基に意見交換がなされ、「私たちにできること」として、ペットボトルや牛乳パックのリサイクル、節水や節電などの4項目。「大人のみなさんへ」として、タバコやゴミのポイ捨て、あまり車を使わず環境を守るなどの4項目計8項目にまとめ、「洞爺湖子ども環境サミット」アピール文として、温泉中3年の萩村太貴く

んが読上げました。

望羊台広場に会場を移し、記念植樹を行い、一人ひとりの日常的な行動が、環境保護へつながっていくことを確認しました。



植樹を終えて記念撮影する参加者

環境学習施設

エコギャラリーオープン

サミット開催に合わせて、環境を考える施設「エコギャラリー」が、洞爺湖ビジターセンターの敷地内に建設され、6月1日オープンを迎えました。

約800㎡の広さで、8月末までの仮設の展示施設。地球温暖化対策として、リデュース（削減）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）の「3R」を主要テーマに、温暖化の原因や家庭でのエコ対策などの各コーナーを設置。展示物のほとんどが再生可能なダンボール製で、使用電力も太陽光発電。

オープニングの式典では、桜井郁三環境副大臣やミス日本ネイチャー、長崎良夫町長ら近隣の首長も出席し、テープカットが行われました。

それに続いて、ミス

日本ネイチャーの岡田亜沙美さんが、参加した子供たちを前に環境をテーマにした紙芝居を演じました。

午後からは、JAとうや湖の野菜貯蔵施設「雪蔵」から運び出した雪で、小学生による雪合戦が披露され、多面的な企画で「美しい地球を将来にわたって残そう」とのメッセージが発信されました。



ミス日本ネイチャーの紙芝居に聞き入る児童ら